

行政と市民の協働について



菊池 一勇 議員

【質問】遠野市総合計画が策定され「行政と市民の協働」が表現されている。市政運営は、市民との相互理解がなければならないが、どのように進めるのか。

【市長】目指すべきビジョンとして、前期計画を策定したが、公募等による市民とのワーキンググループで32のテーマ、71回の会議、

707人の参加によって、意見・提言を具体的に反映した。

自治会等組織との連携や担当の専任職員の配置をし市民協働に努めたい。

【質問】自治体としての、企画・立案が重要である。職員の意欲・能力発揮が不可欠であり、地域間格差が生じないよう、充分能力発揮をしてほしい。方策を伺う。

【市長】やる気・本気・根気のある活動型職員を育成するため、国・県・民間への派遣、研修の実施をはかり、職員の意識改革、人材育成に努めている。課題解決のため、職員とともに研鑽を重ねる覚悟である。

農業振興の取り組みは



石橋 達八 議員

【質問】強い農業づくり、農政改革に対する市の取り組み状況は。

【市長】まずは、意欲ある市内生産者と関係機関が一つでも多くの成功事例を積み重ねることが大切だ。また、集落営農の確立には、発展・進化のため越えなければならないハードルがあるが、あらゆる機会を通じ

周知徹底を行いサポートしていく。

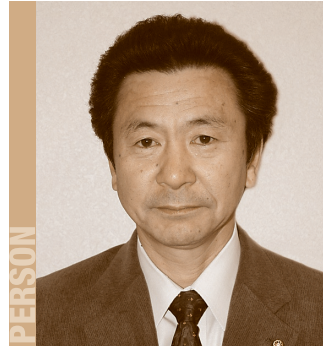
【質問】みやもりホール等観光スポットの活用は。

【市長】みやもりホールをはじめ、mm1、めがね橋等観光スポットの環境づくりについて遠野市観光協会と連携を図りながら検討していきたい。

【質問】人口減少自治体として、田舎暮らし、里山生活等に関心ある人の受け皿づくりを示せ。

【市長】組織として「で・くらす遠野」を立ち上げ、市民サポート制度、遠野郷人会、宮守ふるさと会等との連携の中から定住人口の拡大に努める。また、ふるさと市民制度を創設し、5年間で10,000人を目標として取り組む。

バイオマスタウン構想の推進は



浅沼 幸雄 議員

【質問】本市では、本年3月に農林水産省に対して「遠野市バイオマスタウン構想」を提出しており、その中で「市内の畜産農家等との協働により、バイオガス発生装置の導入と利活用を視野に入れた検討を行う」とあるが、今後具体的にはどのような方法で推進を図るのか。

【市長】当市のバイオマスタウン構想は、遠野市地域新エネルギービジョンにおける、バイオマスエネルギーに関する具体計画として位置づけており、総合計画基本計画において、「耕畜連携による土づくり」や「木質バイオマスや有機性残さを利用した自然エネルギー活用」を図り、自然と環境と産業の融和する「永遠の日本のふるさと」の確立を目指すものであるとしている。利用可能なエネルギーの導入については、イニシャルコスト・市場性・技術開発・ランニングコストなどに総対的に検証を加え調査を行い、その上で検討すべきものとする。

【その他の質問項目】

ブルーベリーの里構想について

宮守プロイハウスについて



菊地 邦 議員

【質問】宮守プロイハウスは、市長が社長に就任し新体制で経営改革に取り組むとの考えだがその内容について伺う。

【市長】売上げは今も前年度を下回り厳しい状況であり、場合によっては一部営業休止も選択肢に入れながら厳しい対応を想定せざるを得ない。債務の処理は財務

状況を精査して、大株主として適切な対応を検討する。地ビールブランドは貴重な地域財産であり、営業譲渡、委託生産などにより存続を考えている。最終的にはプロイハウスの意思決定機関の中で決定される。市所有の株の民間売却は経営内容上難しいと考える。第三セクターについては市全体集中的に10月以降見直しをする体制を取っていく。

【質問】今回の国の介護制度改革での介護認定者が増えないよう予防を重視する対策を伺う。

【市長】本年度から遠野ハートフルプランと合わせて、筋力向上「元気楽しく高齢者体力アップ事業」などを実施している。